

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成2年9月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第54号 第6号

vol.54 no.6

物性研究

1990/9

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“□”、イタリック“_”、ゴシック“~”、ギリシャ文字“ギ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv、†(ダガー)と+(プラス)、φとϕとΨとΦ等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“□”、イタリック“_”、ゴシック“~”、ギリシャ文字“ギ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくいoとaと0(ゼロ)、uとnとr、cとe、l(エル)と1(イチ)、xと×(カケル)、uとv、†(ダガー)と+(プラス)、φとφとΨとΦ等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（13×19cm）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

プレプリント案内

[東京大学理学部 和田研究室]

1631

N. Ishimura, T. Yamamoto,
Commensurate Structures of a Two-Species Adatom System

1632

T. Yamamoto, N. Ishimura,
One-Dimensional n -State Discrete System with the Lattice
Distortion

1633

S. N. Coppersmith,
Superconducting States of an Extended Hubbard Model

1634

Y. Hatsugai, M. Kohmoto, Y.-S. Wu,
Braid Group and Anyons on a Cylinder

1635

M. Takahashi,
Dynamics of Antiferromagnetic Heisenberg Model at Low
Temperature

1636

Y. Ono, A. Terai,
Motion of Charged Soliton in Polyacetylene due to Electric Field

1637

A. Terai, Y. Ono,
Electric Field Induced Depinning of a Charged Soliton from an
Impurity Center in Polyacetylene

1638

S. Ichimaru, S. Ogata, A. Nakano,
Rates of Nuclear Fusion in Metal Hydrides

1639

M. Ozaki, H. Kohno,
Symmetries of the Solution of the t - J Model

1640

S. N. Dixit, D. Guo, S. Mazumdar,
Essential States Mechanism of Optical Nonlinearity in
 π -Conjugated Polymers

1641

S. Misawa,
Hall Effect in Strongly Correlated Superconductors

1642

N. Kawakami, S.-K. Yang,
Comment on "Twisted Boundary Conditions and Effective Mass in
Heisenberg-Ising and Hubbard Rings"

1643

N. Kawakami, A. Okiji,
Characteristics of Dressed Particles in the 1D Correlated
Electron Systems

1644

T. Schimizu, H. Kamimura,
Theory of the Normal State Hall Effect in Copper Oxides
Superconductors

1645

Y. Hasegawa,
Generalized Flux States on 3-Dimensional Lattice

1646

L. X. Zheng, R.E. Benner, Z. V. Vardeny, G. L. Baker,
Resonant Raman Scattering Studies of Disorder in Solution-Cast
Polydiacetylene Films

1647

G. S. Kanner, Z. V. Vardeny, B. C. Hess,
Studies of Picosecond Acoustics in Polythiophene Thin Films

1648

M. Imada,
Superconducting Correlation of the One-Dimensional t-J Model

1649

H. Kamimura, M. Eto, K. Ishida, S. Matsuno, T. Schimizu
H. Ushio,
Electronic States and Origin of Superconductivity in
 $\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$

1650

G. A. Gehring, R. Wojciechowski,
The Theory of Heavy Fermion Compounds at High Temperatures and
in High Magnetic Fields

1651

Y. Ohta, T. Tohyama, S. Maekawa,
 T_c versus ΔV Correlation in Cu-Oxide Superconductors

1652

A. Oguri, K. Yamanaka, J. Inoue, S. Maekawa,
Quantum spin-liquid state with a vacancy

1653

J. Inoue, S. Maekawa,
Spin Correlations around Mobile Holes in an Antiferromagnet

1654

Y. Ohta, T. Tohyama, S. Maekawa,
Apex oxygen and critical temperature in Cu-oxide
superconductors: Universal correlation with the stability of
local singlet

掲 示 板

詳しい応募書類は各研究室に送ってありますので、それを参照して下さい。
なお入手困難な方は直接基研共同利用事務室にご連絡下さい。

1991年度前期 研究計画・アトム型研究員募集

京都大学基礎物理学研究所
所 長 長岡 洋介

標記のことについて、公募を下記の通り行います。長期・短期・モレキュール型研究計画等のほかに、従来の枠にとらわれない新しい研究計画の応募も歓迎いたします。

記

1. 募集内容

長期研究計画：	1991年4月～1992年3月に実施の提案
短期研究計画：	1991年4月～1991年9月に実施の提案
モレキュール型研究計画：	1991年4月～1992年3月に実施の提案
アトム型研究員：	1991年4月～1992年3月に実施の計画

それぞれの内容は別紙参照。なお、長期およびモレキュール型研究計画は、実施期間1年の募集をおこなっていますので御注意下さい。

2. 締 切 1990年12月8日(土)(必着)
3. 宛 先 京都市左京区北白川追分町 (〒606)

京都大学基礎物理学研究所

共同利用事務室

電話 075(753)7008

4. 応募の際は添付の申請書にご記入の上、封筒の表に研究計画またはアトム型研究員応募と明記してお送り下さい。
5. 基礎物理学研究所研究部員会議及び運営委員会(1991年1月の予定)で審議決定します。

1991年度前期 ビジター・地域スクール・ゼミ派遣募集

京都大学基礎物理学研究所
所長 長岡 洋介

去る6月8日に、京都大学基礎物理学研究所と広島大学理論物理学研究所の合併が成立し、10部門からなる新しい研究所が発足しました。基礎物理学研究所では、これを機会に今までにない新しい企画の検討を重ね、1990年7月に開催された研究部員会議でビジター制度、地域スクール制度ならびにゼミ派遣制度を設けることを決定しました。希望者は下記要領に従って、お申し込み下さい。

記

1. 募集内容

ビジター制度

当研究所に滞在して研究することを目的とします。滞在期間は1週間を限度とします。

地域スクール制度

各地域で近傍の複数の研究機関からの参加を得て開催される研究会、スクールの講師派遣のための旅費援助や参加者の旅費補助を致します。

ゼミ派遣制度

セミナーに、基研の所員を講師として派遣するための旅費援助を行いません。

それぞれの内容については裏面をご参照下さい。

2. 締 切 毎奇数月の10日(必着)締切です。
3. 実施期間 締切翌月1日以降
4. 宛 先 京都市左京区北白川追分町 (〒606)

京都大学基礎物理学研究所

共同利用事務室

電話 075(753)7008

5. 応募の際は、封筒の表にビジター制度、地域スクール制度またはゼミ派遣制度応募と明記してお送り下さい。
6. 研究部員会議議長団及び所員で審議決定します。

第 5 回 Yukawa International Seminar (YKIS'92) 企画募集

基礎物理学研究所では例年、夏の学校とワーク・ショップの性格を持ち、国外からの参加者を含めた小規模国際会議 (YKIS) を開催しております。企画をお持ちの方は、下記の項目について必要事項を書いて御提案下さい。

記

1. 提案締切 1990年12月8日(土) 必着
2. 宛先 京都市左京区北白川追分町(〒606)
京都大学基礎物理学研究所
共同利用事務室
電話 075(753)7008
3. 御意見、御提案はなるべく下記の点についてお書き下さい。
 - a) テーマとその内容(なるべく具体的に)。
 - b) 実施時期および日数。
 - c) 参加者の対象と規模。
 - d) 招待したい研究者ないし講師(国内・国外を問わない)。
 - e) 同時期に他の研究機関で開催が計画されている関連分野の企画(小規模国際研究集会、国際会議を含む)との関係。
 - f) 本YKISを実施する場合の組織(組織委員会、実行委員会等)の構成(人名についての提案を含む)。
 - g) その他の御意見。
4. B5判の用紙に黒字でお書きの上、封筒の表に「YKIS企画提案」と明記してお送り下さい。

基 研 研 究 部 員 会 議 議 題 募 集

来る 1991 年 1 月に基研の研究部員会議が行われる予定ですので、議題がございましたら議題趣旨とともに 1990 年 12 月 8 日 (土) 必着で下記にお申し込み下さい。

〒 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所
研究部員会議議長団

1990年10月9日

理論物理学関係各研究所長 様

各大学物理学教室主任 様

財団法人 湯川記念財団

理事長 湯 浅 佑 一

湯川記念財団奨学研究者募集について

このたび下記要項により1991年度本財団奨学研究者を募集することになりましたので、貴部内関係者に周知方よろしく申し上げます。

なお、当研究者は原則として基研研究者として採用されます。

記

研 究 員 募 集 要 項

1. 応 募 資 格

大学院博士課程修了者及び1991年修了予定の理論物理学研究者

(この研究費は大学院博士課程修了者にその研究の完成を援助する目的をもって重点的に交付されるいわゆるPost Doctorial Fellowshipとして支給されるものである)

2. 支 給 月 額

月 額 131,000円

支給期間は1年間を原則とするが、場合により1年延長することがある。

3. 研 究 場 所

基礎物理学研究所において研究することを原則とする。

4. 募 集 人 員

3 名 (内訳はだいたい素粒子論2名、物性論1名、中間の領域については適宜定める)

5. 応 募 書 類

①申 込 書 (別紙様式による)

②発表論文リスト

共著論文の場合は、共著者名を明記すること

③主な論文の別冊

④研究計画 (なるべく具体的に記すこと)

以上、各2部を1990年12月8日(土)までに、〒606京都市左京区北白川小倉町50の227 湯川記念財団 に必着するよう送付のこと。他に奨学金その他の収入のある場合は、必ず書き添えること。

6. 審 査

審査は基礎物理学研究所運営委員に依頼し、1991年1月下旬に選考して本人に通知する。

追記 応募書類はお返しいたしません。

1990年10月

財団法人 湯川記念財団

(別紙様式)

湯川記念財団奨学研究者申込書

このたび別紙関係書類を添えて貴財団奨学研究者に応募しますのでよろしくお願ひします。

年 月 日

本 籍

現住所(〒)

氏 名

印

年 月 日生

財団法人 湯川記念財団

理事長 湯 浅 佑 一 殿

略 歴

氏名

年 月 日生

<p>高等学校</p>	<p>年 月</p> <p>高等学校 課程卒業</p>
<p>大学</p>	<p>年 月</p> <p>大学 学部入学</p> <hr/> <p>年 月</p> <p>大学 学部 学科卒業</p>
<p>大学院</p>	<p>年 月</p> <p>大学大学院 研究科入学</p> <p>専攻科目（具体的に）</p> <p>年 月博士課程修了；見込</p>
<p>専門分野</p>	<p>（該当するものを丸で囲んでください）</p> <p>素粒子：原子核：物性：天体核： その他（具体的に）</p>

訂正

『物性研究』53-4 (1990. 1) 所載

「エントロピー的見地からの一カルノー主義者による統一的自然像への試み」

信州大・理 勝木 渥

正誤と補足 (その2)

- 388頁 5行目* 誤： $2^{N/4}$ 正： $(N+1)^{1/4}$
($2^{N/4}$ になるのは、天井が上からの輻射に対して完全に透明，下からの輻射に対して完全に不透明の場合である。)
- 393頁 6行目 誤：そして 正：他方
- 395頁 15行目* 誤：(ブドウ糖)作り出す 正：(ブドウ糖)を作り出す
- 412頁 下から14行目* 誤：腎臓でされた 正：腎臓で濾過された
- 416頁 16行目* 誤：地下高騰 正：地価高騰
- 418頁 下から9行目* 誤：組み込まれるなければ 正：組み込まれなければ
- 426頁 20行目 誤：わけの分からぬもの 正：「エントロピーな」もの

【補足】

- 388頁 25~6行目* 半径を r の分子の断面積を $4\pi r^2$ としてあるが、これは動き回る分子を点と考え、その代り、ぶつかられる方の分子の半径を2倍にしたのである。
- 398頁 9行目の光合成の化学式 $6CO_2 + 12H_2O \rightarrow C_6H_{12}O_6 + 6O_2 + 6H_2O$ に対応する、水の代りに硫化水素を利用する微生物による光合成の化学式は、
 $6CO_2 + 12H_2S \rightarrow C_6H_{12}O_6 + 12S + 6H_2O$ である。
- 413頁 「温度からみた階層性」の節では、飽和蒸気圧や浸透圧のことにも触れた方がよかった。
- 423頁 7~16行目「汗水垂らして働くことの意義」* では、金に換えられない労働の意義をもっと強調した方がよかった。
- 426頁 5行目 小説『海軍』の装丁は川端龍子なので、風神・雷神が描かれていたという、私の記憶は正しいであろう。

この頁に書いた訂正・補足のうち * をつけたものは、このノートを読んだ 西森一夫君 (信州大学大学院理学研究科物理学専攻 修士課程1年生) の指摘・コメントによって訂正・補足した。
(1990. 6. 14 勝木 渥)

訂正

『物性研究』53-4 (1990. 1) 所載

「エントロピー的見地からの一カルノー主義者による統一的自然像への試み」

信州大・理 勝木 渥

正誤と補足 (その2)

- 388頁 5行目* 誤： $2^{N/4}$ 正： $(N+1)^{1/4}$
($2^{N/4}$ になるのは、天井が上からの輻射に対して完全に透明，下からの輻射に対して完全に不透明の場合である。)
- 393頁 6行目 誤：そして 正：他方
- 395頁 15行目* 誤：(ブドウ糖)作り出す 正：(ブドウ糖)を作り出す
- 412頁 下から14行目* 誤：腎臓でされた 正：腎臓で濾過された
- 416頁 16行目* 誤：地下高騰 正：地価高騰
- 418頁 下から9行目* 誤：組み込まれるなければ 正：組み込まれなければ
- 426頁 20行目 誤：わけの分からぬもの 正：「エントロピーな」もの

【補足】

- 388頁 25~6行目* 半径を r の分子の断面積を $4\pi r^2$ としてあるが、これは動き回る分子を点と考え、その代り、ぶつかられる方の分子の半径を2倍にしたのである。
- 398頁 9行目の光合成の化学式 $6CO_2 + 12H_2O \rightarrow C_6H_{12}O_6 + 6O_2 + 6H_2O$ に対応する、水の代りに硫化水素を利用する微生物による光合成の化学式は、
 $6CO_2 + 12H_2S \rightarrow C_6H_{12}O_6 + 12S + 6H_2O$ である。
- 413頁 「温度からみた階層性」の節では、飽和蒸気圧や浸透圧のことにも触れた方がよかった。
- 423頁 7~16行目「汗水垂らして働くことの意義」*では、金に換えられない労働の意義をもっと強調した方がよかった。
- 426頁 5行目 小説『海軍』の装丁は川端龍子なので、風神・雷神が描かれていたという、私の記憶は正しいであろう。

この頁に書いた訂正・補足のうち * をつけたものは、このノートを読んだ 西森一夫君 (信州大学大学院理学研究科物理学専攻 修士課程1年生) の指摘・コメントによって訂正・補足した。
(1990. 6. 14 勝木 渥)

編集後記

国際会議や研究集会が多いのにびっくりする。殆ど同じテーマで時期も重なって開催されることも珍しいことではない。こういう会議に出てみて、とみに最近感じるのはテーマのパンチングとでもよぶべき現象である。どこかの研究グループが苦労してたどりついたテーマがちょっと面白いとなると他のグループがそれにどっと押し寄せオイシソウな部分、すぐにできそうな部分をたちまちに食いつくし、2年もたたないうちにテーマ本来に内在した面白さがいつのまにか忘れさられ、何となく古くなって消えてしまうという現象だ。こういうのにまきこまれつつ生き残る方法として人々が収れんしそうな方向として

(1) 面白そうなテーマをつつきだし流行りそうになるや否や退散、他のテーマをつつきだす。

(2) 自分の関心のあるテーマにのみ、周囲の関心の有無にかかわらず固執する。

(1) を選択するためには、たえずいろいろしていなければいけなさそうだし、物理学者としての才能と同じくらのコピーライターとしての才能が必要そうである。(2) は超古典的態度とも言うべきものだが現在性と接触することによってのみ生きれるダイナミズムの喪失につながりそうである。元来「学問」なるものは態度(2)によってのみ生み出されてきたのだろうが、情報化時代は次第にこの態度を風化させ意味を失わせつつあるような気がする。

さて「国際化」とやらを強いられている日本で国際会議が開催される機会は今後ますますふえるだろう。例によって、「バスにのりおくれるな」とばかりに雨後のタケノコの如く次々会議が開かれ、世界が会議の過多の無駄に気づき始めたところに国際会議が林立するという悪夢だけは実現して欲しくないものである。

(K. I.)

物性研究 第54巻第6号 (平成2年9月号) 1990年9月20日発行

発行人	小貫 明	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

編集後記

国際会議や研究集会が多いのにびっくりする。殆ど同じテーマで時期も重なって開催されることも珍しいことではない。こういう会議に出てみて、とみに最近感じるのはテーマのパンチングとでもよぶべき現象である。どこかの研究グループが苦労してたどりついたテーマがちょっと面白いとなると他のグループがそれにどっと押し寄せオイシソウな部分、すぐにできそうな部分をたちまちに食いつくし、2年もたたないうちにテーマ本来に内在した面白さがいつのまにか忘れさられ、何となく古くなって消えてしまうという現象だ。こういうのにまきこまれつつ生き残る方法として人々が収れんしそうな方向として

(1) 面白そうなテーマをつつきだし流行りそうになるや否や退散、他のテーマをつつきだす。

(2) 自分の関心のあるテーマにのみ、周囲の関心の有無にかかわらず固執する。

(1) を選択するためには、たえずいろいろしていなければいけなさそうだし、物理学者としての才能と同じくらのコピーライターとしての才能が必要そうである。(2) は超古典的態度とも言うべきものだが現在性と接触することによってのみ生きれるダイナミズムの喪失につながりそうである。元来「学問」なるものは態度(2)によってのみ生み出されてきたのだろうが、情報化時代は次第にこの態度を風化させ意味を失わせつつあるような気がする。

さて「国際化」とやらを強いられている日本で国際会議が開催される機会は今後ますますふえるだろう。例によって、「バスにのりおくれるな」とばかりに雨後のタケノコの如く次々会議が開かれ、世界が会議の過多の無駄に気づき始めたところに国際会議が林立するという悪夢だけは実現して欲しくないものである。

(K. I.)

物性研究 第54巻第6号 (平成2年9月号) 1990年9月20日発行

発行人	小貫 明	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 15,600円

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号) 4,200円

2nd volume (10月号～3月号) 4,200円

計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1—5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の名前を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075)753—7051 722—3540

物性研究 54—6 (9月号) 目次

○研究会報告	
「非線形力学系の基本問題」.....	617
○修士論文題目・アブストラクト(1989年度)その1.....	675
○プレプリント案内.....	825
○掲示板	
京大基研研究計画・研究員等公募通知.....	828
○訂正.....	836
○編集後記.....	837

物性研究 54—6 (9月号) 目次

○研究会報告	
「非線形力学系の基本問題」.....	617
○修士論文題目・アブストラクト(1989年度)その1.....	675
○プレプリント案内.....	825
○掲示板	
京大基研研究計画・研究員等公募通知.....	828
○訂正.....	836
○編集後記.....	837